

ウサヒ援軍「産業まつり 完結編」

ウサヒ援軍「産業まつり その3 完結編」

産業まつりのレポート完結編です。

お祭も終盤に差し掛かり、ふたたび会場に訪れたウサヒ。

しかし、混んでいる会場内をひとりで移動したり、

パフォーマンスするのは危険度が高い。



ちびっこに背中中のチャックを開けられる危険性もある・・・悩むウサヒ

その時だった

謎の声「それなら私たちに任せなさい！！」

ウサヒの背後から謎の声が！



後ろに謎のお姉さん出現

ウサビ「あ、あなたは、最上町の地域おこし協力隊・亜季ちゃん！！」

(そして、写真を撮ってくれているのは、同じく最上の協力隊・山上さんです)

最上町も、朝日町と同様に地域おこし協力隊が派遣されているのですが、

休日を利用して朝日町に遊びに来てくれたのです！！

亜季ちゃんは大学時代の後輩ということもあり、

最上の隊員たちとは着任初期からいろいろと情報交換をしています。

(なお、亜季ちゃんは元エコルームのよう子お姉さんの大学同じ学科の後輩にもなります)

亜季ちゃん「どうやらお困りのようね。私たちが手伝ってあげましょう」

ウサビ「すげー助かる！！やはり持つべきものは後輩だね！」

亜季ちゃん「協力隊の任期でいうなら私の方が先輩よ。どーんと任せておきなさい！」

(亜季ちゃんは2010年4月から隊員として着任。頼りになる)

ウサビ「うん、ありがとう…でも…」



実はちょっと気がかりなことがあるウサビ

ウサビ「会場来てくれていたなら、

なんでさっきちっちゃい子たちから乱暴な扱いうけていた時

助けてくれなかったの??」

亜季ちゃん「(ギク!!) それは…その…」

なぜか濁す亜季ちゃん

山上「お惣菜…食べてたから…」

亜季ちゃん 「山上さんそれは内緒おお！！」

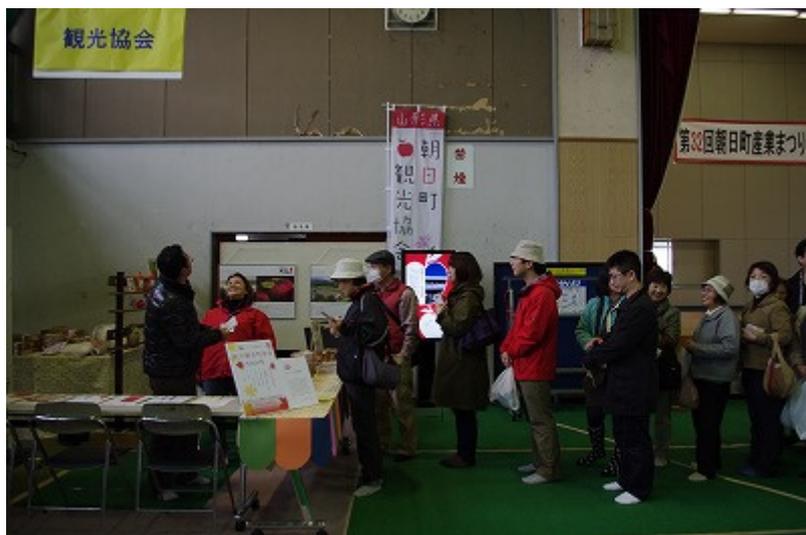


山上撮影 「おいしかった肉団子」

山上 「あと・・・お弁当の行列にも並んでた・・・」

亜季ちゃん 「山上さん正直すぎるよおお」

ウサヒ 「ホントだ！よく見ると、お弁当の行列に並んでるじゃん(しかも2番目に！！)」



山上撮影 「10時過ぎから並んでた私たち」

ウサヒ 「僕の苦勞を、遠くから眺めていたというわけか…」

亜季ちゃん 「落ち着いてください先輩。あとでドーナツ買って上げますから！！」

ウサヒ 「ぶい！（不機嫌）」

亜季ちゃん 「食べ物買収失敗！！」



ウサヒは不機嫌

すると、カメラの山上さんが

山上 「佐藤君…佐藤君のパッケージ買ったよ…お弁当おいしかった」



中の人作のパッケージ

中の人「お、おう、ありがとう。」

亜季ちゃん「(うまいこと山上さんが丸め込んでくれたわね、今がチャンス！！)

というわけで、後半は私たちがエスコートと撮影をするので、

存分にウサビのパフォーマンスを発揮してください！」

()内は亜季ちゃんの心の声です

ウサビ「わかったぜ！着ぐるみ協力隊の力みせてやんよ！！」

まるめこまれた

ウサビ「と…いうわけで…」

亜季ちゃん 「桃色ウサヒ×亜季ちゃんの朝日町探検スタート！！！」



なんだろう、初めてとは思えないこのグループ感

みんなが集まってきて



子どもたち 「うをっ！また来た。ウサヒきたぜ！！」

亜季ちゃん 「はーい、害獣じゃないですよ～。やさしくしてあげてくださいね～」



おもちゃの銃を向けられても、なんなく対応

亜季ちゃんの適度なエスコートは見事で、

やはり、着ぐるみのイベントには「外の人」が重要だなと実感します。

こうして、会場内をぐるぐるまわることになったウサビ。

続いて抽選会場へと行くと



ガラガラをまわすウサヒ

係りのみなさん「とりあえず、みんなに抽選会の宣伝してきてよ。これあげるから！」

そういつて、お腹のポッケに PR 用のティッシュを詰め込まれる始末。



ガンガンお腹に詰め込まれる



ジャンケン神でお世話になったマルコさんも詰め込んできた



亜季ちゃんもなぜか一緒になって詰め込んできた

つづいてりんごの紹介（品評会に出展されたりんごたち）

中には1箱5万円のりんごもあります。



よく見ると、ポッケの中以上に膨らんでいる(ティッシュのせい)

その後も

なぜか剣を渡されたり



せっけん売りのおばあちゃんと写真撮ったり



だっこしたり(食べようとしているわけではない)



斬新な技をかけられたり



ホールドされるウサビ

最上の協力隊の見事なサポートによって

無事、産業まつりの会場を回ることができたウサビでした。



ウサビ 「2人ともいかがでした？」

亜季ちゃん 「いやぁ、気軽に買い物のつもりで来たのに、

めちゃくちゃ満喫しましたよ。朝日町はいろんなものがあふれてていいですね。

私のエスコートはいかがでした？」

ウサビ 「お金払って雇いたいレベルでした。ありがとう。山上さんは？」

山上 「(ニヤリ)・・・満足です。」

そんなこんなで

亜季ちゃん、山上さん本当にお世話になりました。

今度は中の人も最上にお手伝い行きますね。

そしてご来場の皆さん、来年もぜひ産業まつりの会場でお会いしましょう！！

桃色ウサビの産業まつりレポートはこれで完結です。